

ビーンボウリング

ビーンボウリングは、ボウリングのピン配列を工夫し、横に並べ簡便化したものです。名の通り、ピンにボールが当たると豆がはじけるように、反転したり、勢いにつきすぎると自動的に元にもどるようになっています。

コントロールやバランスを競うゲームで、体格や体力に関係なく、老若男女誰でも楽しめる軽スポーツです。



時期	通年	所要時間	1～2時間	人数	60名以内	
対象	幼児以上	活動場所	プレイホール、中央ホール、第一研修室			
準備物	自然の家で貸し出す物		団体・個人で準備する物			
	ビーンボウリング用具一式 得点表		□汗ふきタオル			
活動の手順	事前指導	<p>1 チームを編成する。(1対1 2対2 5対5等)</p> <p>2 用具を準備する。(プレイホール内用具室)</p> <p>3 ルールを知る。</p> <p>(1)ゲームの進め方</p> <p>① 先攻後攻を決める。</p> <p>② プレイヤーは1フレームにつき2球ずつ投球する。</p> <p>③ 投球ラインからピンまでの距離は5m、7m、9mとする。それぞれの距離から3フレームずつ合計9フレームを投球して1ゲームとする。</p> <p>④ ボールを転がして9本のピンに当て、反転したピンの点数が得点になる。ただし、反転後リバウンドし、元に戻ったピンは得点として数えない。</p> <p><勝敗></p> <p>◇ 全フレームが終わったときの合計得点が多い方が勝ち。</p> <p>◇ 9本のピンのうち、中央の無表示のピンをストライクピンと呼ぶ。1投目でストライクピンが反転した場合は20点(ストライク)となる。2投目で反転すれば10点(スペア)となる。</p> <p>◇ ストライクやスペアをとっても次のフレームには加算されない。</p> <p><反則></p> <p>◇ 投球動作中にラインを踏んだり、越えてしまう。</p> <p>◇ 投球後にラインを越えてしまう。(手がラインから出るのは良い)</p> <p>※ このルールは例です。アイデアは無限です。団体で遊び方を工夫してみてください。</p>				
		活動の実際	<p>○ ゲーム開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに参加していないチームが審判及び得点係をする。 ・トーナメント戦またはリーグ戦で行う。 			
			事後	<p>1 参加者のけがの有無を確認する。</p> <p>2 用具の後片付けをする。</p> <p>3 成績発表や表彰式を行う。(任意)</p>		
備考						

